

序論) 49 章の説明

49 章からイザヤ書は新しい段階に入ります。なぜなら、49 章以降では、これまで繰り返し語られてきた偶像礼拝やキュロス王についての言及がなくなり、将来への慰めが預言の主軸になるからです。今日取り扱う 49 章の 1 節から 6 節は、【主】に召された特別なしもべが、自分のことを説明している箇所です。

では、この特別な「しもべ」とは誰のことなのでしょう。

答えを先に言いますと、この「しもべ」とは私たちの救い主であるイエス・キリストのことです。イザヤは預言を通して、受肉前、つまり、人となられる前のキリストの言葉を私たちに教えてくれているのです。

では、そのキリストの言葉を順に見ていきたいと思えます。

1) ことばによって戦うキリスト

最初に【主】イエスキリストは、世界中の国々に向かって、キリストのことばに耳を傾けるように命じておられます。1 節の前半

49:1a 島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。

3 節で神様は、キリストのことを「イスラエル」と呼んでいます。でもこのお方はイスラエルだけのために立てられたお方ではなく、むしろ、世界中の人がこのお方のことばに耳を傾けるべきお方なのです。

なぜでしょうか？

それはこのお方が、ことばによって敵と戦ってくださるお方だからです。

1 節の後半には、

49:1b 【主】は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。

とあって、キリストは受肉する前から神様の計画の中に織り込まれていたお方であり、事実、キリストはマリアに受胎する前から御使いガブリエルによってこのお方がどのようなお方かが告知されていました。

そして、その【主】なる神様のご計画によると、キリストがどのような存在として計画されていたかというところ 2 節

49:2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。

つまり、神様はキリストのことばを鋭い剣のようにされ、鋭い矢のように敵を貫く者としつつも、この時は【主】の御手の中に隠されていると言われていました。

イザヤの時代、キリストはまだ受肉されていませんから、この預言が語られていた頃は、キリストはまだ隠された存在だったので、キリストは、「御手の陰に私をかくまい」とか、「主の矢筒の中に私を隠された」と表現しておられます。

しかし、たとえ神様の矢筒の中にしまわれていたとしても、このキリストは敵と戦う剣や矢の役割を与えられており、その攻撃は暴力によるのではなく口から出るみことばによってなされることが決まっていました。

事実、【主】イエスキリストはサタンの誘惑を受けられたとき、みことばによって悪魔を退けられました。

また、キリストは三位一体の神様なので、そのことばは、ヘブル人への手紙 4 章 12 節のようです。

ヘブル 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

キリストのことばには、敵だけでなく、私達の心を刺し貫いて私達を正す力もあるのです。だからキリストは 1 節にあるように

49:1a 島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。

と語りかけておられます。みなさん、先週もいいましたが、私達が【主】のことばを聞き、このお方のみことばに耳を傾けることは本当に大切なのです。キリストは、そのみことばによって、私達を正し、そして、私達の敵を貫いてくださるからです。

2) 【主】の栄光を現すキリスト

次に3節、4節を読んでみましょう。ここには【主】なる神様とキリストのやりとりが書かれており、キリストが【主】の栄光を現すお方であることが示されています。

49:3 そして、私に言われた。「あなたはわたしのしもべ。イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

ここで神様は、キリストのことを「イスラエルよ」と呼びかけておられます。なぜでしょうか？ それは元々、【主】の栄光を現すという使命はイスラエルに与えられていたものだったからです。

詩篇の中には、元々イスラエル人たちが礼拝をするときに歌っていた詩が書かれています。有名は詩篇96篇2節、3節ではこのように語られています。

96:2 【主】に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと御救いの良い知らせを告げよ。

96:3 主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざをあらゆる民の間で。

このように【主】の栄光を現すことは、元々はイスラエルに与えられていた使命でした。しかし、ご存知のようにイスラエルは【主】の栄光を現すことができていませんでした。だから、【主】はイスラエルの代わりに、【主】の栄光を現す器としてキリストをお立てになったのです。

では、みなさん、キリストは【主】の栄光をすんなり現すことが出来たでしょうか？ 別の言い方をすると、人々はキリストを見てすぐに神の栄光を賛美したでしょうか？

一部の敬虔な人たちは、キリストを見て神様を賛美しましたが、でも、多くの人はいエス様のことをキリストとして認めることができず、キリストに神様の権威があることを受け入れませんでしたよね。だから、キリストは4節のようにいわれています。

49:4 しかし私は言った。「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは【主】とともにあり、私の報いは私の

神とともにある。」

キリストは確かにそのみことばによって、サタンと戦われるし、その御業によって神様の栄光を示されました。が、人々はそれを受け入れませんでした。だから、キリストは「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。」といわれています。つまりこれは、人々がキリストのことばを受け入れなかったということです。しかし、「それでも」キリストは自分が【主】の前で正しい訴えを言っていることを疑わず、「私の報いは私の神とともにある。」と言われているのです。

みなさん、キリストはみことばによって敵を倒し、神様の栄光を現されるお方です。しかし、多くの人はこのキリストのことばに耳を貸そうとしません。では、キリストのことばは無意味なものであり、神様の栄光を表していないものなのでしょうか。決して、そんなことはないのです。

例え、多くの人がキリストを受け入れなかったとしても、キリストのことばは正しく、その御業は確かに【主】なる神様と共にあって神様の栄光を表しているものなのです。

つまり、どういうことかということ、人々の反応でキリストが示す神様の栄光を判断してはいけない。ということです。「人々が耳を傾けないから、そのことばには【主】の栄光がない。」ということではない。ということです。

神様は、一見すると無駄な骨折り、空しい結果を残しているように見えたとしても、その中に神様の栄光を現してくださるのです。パウロが I コリント 1 章 18 節で、

I コリ 1:18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

とっているように、キリストは世の人たちには愚かと思えるようなことばを通して、【主】の栄光を示してくださるお方なのです。

キリストは、【主】の栄光を現してくださるお方です。だから、私達はこのお方のことばに耳を傾けていくのです。人の評価は関係ありません。

3) 国々の光となるキリスト

そして、最後、キリストはイスラエルの救い主だけではなく、世の光であることを覚えて終わりたいと思います。5節、6節を読みましょう。5節、6節はキリストのことばではなく、キリストに対する【主】なる神様の証言となっています。5節

49:5 今、【主】は言われる。ヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、母の胎内で私をご自分のしもべとして形造った方が言われる。私は【主】の御目に重んじられ、私の神は私の力となられた。

これは1節の後半部分の繰り返しですね。神様がキリストのことをご計画されていたことが書かれています。ただ、1節と違うところは、キリストに与えられた使命の中には「イスラエルをご自分のもとに集める」という使命。・・・つまり、イスラエルを悔い改めさせるという使命が含まれていたということです。

イエス様は、確かにイスラエルを【主】のもとへ集めるという使命をもっておられました。だから、イエス様の福音宣教はまず第一に、イスラエル人たちに向かって語られていたのです。でも、それだけじゃないということが6節に語られています。

49:6 主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立て、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

すごいですね。神様はイスラエルを立ち返らせることを「小さなこと」と言われています。イスラエルは確かに神様に選ばれた民族です。でも、そのイスラエルが【主】に立ち返ることは、神様の大きなご計画の中では、「小さなこと」でしかなかったのです。

では、神様のご計画の中で大きなこととはなんのでしょうか？ それはキリストを「国々の光とし、地の果てにまで{神様}の救いをもたらす」事です。

つまり、世界の救い主としてキリストをお立てになること、これが【主】なる神様のご計画の中でもっとも大きな事でした。

だから、イザヤ書に預言されているキリストは、イスラエルだけの救い主ではなく、私達の救い主でもあるのです。

まとめ)

みなさん、私達は今日の箇所を通して、3つのキリストを学ぶことができました。

一つは、「キリストはことばによって戦われる」ということです。キリストは神様の剣として、隠された神様の矢として用意され、そのみことばによって敵を倒し、私達の心を刺し貫かれます。だから、私達はこのお方のことばをしっかりと聞かなければいけないのです。

第二に、「キリストは【主】の栄光を現されるお方」であることを学びました。キリストのみことばは自動的に人々を立ち返らせ【主】の栄光を現すものではありません。キリストのことばは一見すると無駄だったように思える時があります。しかし、それでも【主】はキリストとともにおられ、そのことばを正しい結果へと導いてくださるのです。だから、私達は人々の反応に一喜一憂することなく、キリストが【主】の栄光を現してくださるお方であることを信じて従っていきましょう。

そして、第三に「キリストは国々の光となるお方」であることが示されました。キリストはイスラエルだけのキリストではないのです。それよりも、むしろ、【主】はキリストが私達の光になることをより大きな事として見ておられます。

だからこそ、私達はこのキリストの光を世界中に届けることが必要なのではないのでしょうか。先週の水曜日にあったライフライン合同祈祷会において、大坂太郎先生はマタイの福音書5章から私達が世界の光にされていることを語ってくださいました。

マタイ 5:14 あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

私達ががんばって世の光になる。わけではありません。

私達は既にキリストによって世の光とされているのです。

キリストご自身が世界の光であり、そのキリストを信じる私達も世界の光とされています。だからこそ、このキリストによって与えられた光を世界中に届ける者となるのが、私達にも与えられている使命だといえると思います。

今は、あらゆる方法で世界にメッセージを届けることができる時代です。

事実、この礼拝の配信も外国から見ておられる方がいます。

ですから、私達はあらゆる方法を用いてキリストの光を世界中に届けていきたいと思ひます。先程、読んだマタイの福音書の続きにはこのようなみことばがあります。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

キリストは、「良い行いによって光を輝かせなさい」といっておられます。牧師や伝道師のように直接みことばを語れなかったとしても、キリストのしもべとしてみことばに従って良い行いを実践していきましょう。

そうするとき、キリストが私達を通して世界を照らしてくださると信じます。

お祈りいたします。